



SU GA TA

No.14

特定非営利活動法人
小笠原流・小笠原教場

ごあいさつ

新型コロナウイルスの影響が長期化をしています。昨期こそはという思いもありましたが、一昨期とほぼ同様の内容の活動にとどまりました。そのような中でも武田流との合同流鏑馬が出来たことは大変喜ばしいことであつたと思います。2019年にも武田流と出水神社で流鏑馬を行いました。台風19号の影響で関東・関西から移動が出来ずに、事前に車で移動した5名のみでの執行となっていましたので、今期に20名ほどで執行でき、さらに細川家次期当主をお迎えできたのは歴史に残ることであつたと思います。小笠原教場の安土の整備も完成し、非常に使いやすい稽古環境を整えることができています。

当法人が認定法人となり5年が経ちました。再申請をする時期となり、この5年間の評価がされることになります。認定法人が継続されるように関係の方々と申請書類を作成しておりますので今回の『姿』ではよい報告ができるのではないかと思います。今期は教場の改修工事が完成しますので活動の幅が変わるのではないかと期待をしています。今期もよろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人

小笠原流・小笠原教場

理事

小笠原清基

私の履歴書

流鏑馬四十五年に 想う

高橋 俊介

私が初めて流鏑馬を目にしたのは、小学校三、四年の頃（昭和三十六年頃）でした。

東照宮で毎年行われている千人行列と流鏑馬は社会科見学の二環として、その日の学校は朝礼だけでした。当日、人混みの中、ワクワクしながらよく見に行つたものです。当時はもちろん、この人達のように自分が馬に乗って弓を引くなどとは思いませんでした。

高校卒業後、もともと自然が好きで北海道の牧場に勤め、縁があつて、成人して北海道の牧場か

ら日光に戻つた私は、日光乗馬クラブの仕事に就くようになりまして。その頃クラブ内に「あしげ山荘」という宿泊施設がありました。そこに、東照宮流鏑馬にご奉仕するため、大南工業の社長である篠崎一さんが泊つておられ、その方から面白半分に流鏑馬の手解きを受けたのが最初でした。

一緒にいたクラブの人たちも何人か教えてもらいましたが、腰に差した矢は抜けない、弓を引けば矢がポロリと手から落ちてしまふ。馬にも乗らずこんな難しいことを手綱から両手を放し、全力で走る馬の上で弓を引くなんてとんでもない人たちだと思つたものです。

結局、あの時に流鏑馬を教えてもらい、未だに続いているのは私だけです。こんなに長く続けてこられたのは、狩猟本能が強い私に合っていたのか、日本人の武士（母は黒羽城城主の血を引く大関家の出）としての血が騒いだのか、馬が好きだということも関係しているのかと思つてしまいます。

しかしその思いだけでなく、流鏑馬を四十五年もの間続けてこられたのは、八百五十年以上、現代まで脈々と続いている弓馬術礼法小笠原流に出会い、小笠原流流鏑馬とはこんなにも素晴らしい弓馬術なのだと、実感したからです。

本格的に流鏑馬の稽古を始めたのは、日光東照宮の神職で流鏑馬をやつておられる方々十名位の仲間に入れていただいたことでした。神職で流鏑馬をやられていたのは、自分の知る限りで日光東照宮だけだったと思います。仕事を終えてから社務所



平成5(1993)年5月 日光東照宮下新道/平騎射

うらの空き地に木馬を出して、同年代の神職の射手の方々と暗くなるまで切磋琢磨して稽古に励んだことが思い出されます。

流鏑馬本番に初めてご奉仕させていただいた時には、何が何だかわからないうちに終わってしまった感じでした。落馬こそありませんでしたが、確か一つだけは矢が的に中ったと思います。「これはとんでもないことを始めてしまった」という感じでした。三つあるのうち、一つでも矢が的に中り、的が弾き割れたときの、あの感触はいまだに手の中に残っております。

それから稽古あるのみと自分に言い聞かせて、週四日は稽古に励みました。特に日光は馬も稽古場も揃っていて、日光以外で流鏑馬の稽古をされている門人の方からすると羨ましがられるほどでした。流鏑馬が盛んになると、クラブ会員の中から自分も入門したいという人たちが増えてきました。日光東照宮の神職が行う武徳殿での木馬稽古に参加させていただくには、多くなりすぎるほどでした。

そこで昭和六十二年、地元の人たちを中心に日光乗馬クラブ内に当時、若先生でした現在の御宗家小笠原清忠先生よりお許しをいただき、「日光鎗矢会」が発足されました。きちんとご指導いただける方も、道具もない一からのスタートでした。諸道具が無いからと言って、流鏑馬に使用する馬具などは、昔のものをそのまま使うためとても探して購入することなどできませんでした。やむを得ず、弓は孟宗竹を割って弓を、篠竹を矢に、ある材料で木馬

和鞍もどきを作るなどしました。鎧は義父が厚い鉄板を切って曲げて作ってくれたものでした。

やつとの思いで道具をそろえましたが、肝心なご指導をいただける方には、御宗家のご配慮により小笠原教場から重藤弓免許をお持ちの沢辺雅二様にお越しいただくことになりました。沢辺様には全力疾走の馬の上で考える暇などないため、決められた所作が自然にできるように徹底的に木馬の型をご指導いただきました。沢辺様にご指導いただきましたこともあり、鶴岡八幡宮流鏑馬にてご奉仕させていただいた日光鎗矢会メンバー七名全員が皆中したこともありました。今日、日光鎗矢会が全国各地の神社で執行される流鏑馬神事においてご奉仕させていただけるのも、ご多忙な中、月に一度遠路東京より重い荷物をお持ちになり、電車にて日光まで何年もの間ご来光くださり、右も左もわからない門人たちに一から熱心にご指導いただけました沢辺様のお陰です。

御宗家や沢辺様のお力添えもあり、日光鎗矢会



平成3(1991)年1月 日光乗馬クラブ
NHK大河ドラマ「太平記」
真田広之さんに指導

のメンバーが真剣に稽古を積み重ねることが出来ました。発足当時のことが懐かしく思い出されます。

今日、新型コロナウイルスの影響で海外での流鏑馬が難しくなってしまいましたが、一九九〇年代～二〇〇〇年代は海外での流鏑馬が盛んに行われていました。初めて海外でご奉仕させていただいたのは、フランスパリ市内のサンドマルス公園で執行された流鏑馬でした。一之射手が小笠原清忠先生(当時、若先生)、二之射手が遠井様、三之射手が松本昭正様でした。私が騎乗しました馬は、松本様が騎乗したディエゴ号でした。埒の中になかなか入らないディエゴ号でした。無理に追い込んだ時に急に立ち上がり、馬ごと斜め後ろに倒れ、公園の砂の敷いていない硬い地面に叩きつけられてしまいました。右肘骨折、騎射笠はつぶれ、頭の毛は抜け、足からは血が出ている状態で完全に気を失っていました。どのくらいの時間が経ったのか記憶にありませんが、気が付いた時には後ろから羽交い締めのように支えられ、この時ばかりと頬を思いつきりバシバシ叩かれ気を取り



平成3(1991)年9月 ロンドンハイドパーク
ジャパンウィーク / 稽古中に騎馬警官の馬と



昭和61(1986)年9月 パリ 台東区姉妹都市のため浅草流鏑馬/パリ市長表敬訪問

別の馬に乗り換えて何とか痛い身体をおして無事に馬場まで辿り着きました。初めての流鏑馬海外公演、デイエゴ号と言うアンダルシア種の真白い、まるでヨーロッパの町の中に立っている騎馬像のモデルのような馬、人馬転の時のケガをした右肘の今でも少し飛び出た骨は、永遠に忘れることが出来ない思い出となりました。

イギリス流鏑馬公演では、海軍のポロ用の馬を使用させていただきました。私は白馬の足の速い馬に騎乗させていただきました。この馬をポロの際に騎乗している方はシークレットと言うことで最後のレセプションまでわかりませんでした。レセプションの時に「実はこの白馬(グラウニー号)はチャールズ皇太子がポロでお使いになっている馬です」と言われて、なんとイギリス人は寛大な国民なのかとえらく感じたものです。あの時、別の射手の方が練習の駆足で騎射笠が後ろにずれるほど速かったため、無理に使わないでもいいのではないかと言われました。この流鏑馬公演のためにわざわざ三時間もかけて運んでくれたこと、白い馬が好きなど、早い馬は乗り慣れていたため私が騎乗させていただきました。あの時この馬を選んでいて本当に良かったです。たと後からこの話を聞いてとても感動したものです。小笠原流鏑馬をやっていなかったら絶対にチャールズ皇太子の愛馬なんて間違っても騎乗させていたくことはないはずです。

その他の海外公演での思い出として残っているのは、ハワイ流鏑馬公演です。稽古はレジャー牧場の

クアロアランチで行いました。早朝からバスに乗り込んで牧場に向かいました。埴作りから始めましたが、牧場の人たちは皆さん親日家で牧場に着了いたとたんアロハのあいさつで迎えてくれて、一緒に埴作りを手伝っていただけました。稽古が終わってからも牧場の皆さんとバレーボールをやったり、投げ縄の練習をさせてもらったりと、昨日今日会ったような感じではなく、何年も一緒にいたような親近感を覚える思いでした。ハワイ公演流鏑馬では、恐れながら一之射手を仰せつかり、先射手皆中と最高の気分でご奉仕でき、また、騎乗したボウ号と言うクウオーターホースでホノルルの町の中を行列できたことは素晴らしい思い出となって心の中に残っております。

海外公演以外にも長年、流鏑馬に携わっておりますと思いがけない人との出会い、素晴らしいことがありました。NHK大河ドラマ「太平記」で真田広之さんが流鏑馬のシーンを撮影するため、技術指導をして欲しいと製作者側から依頼されました。真田さんは、自分の馬を持つておられるくらいですから、乗馬技術は見事なもので、仕事柄、和鞍にも慣れているようでした。しかし、馬上で両手を放し、弓矢を扱うのには、最初はかなり困惑した様子でした。忙しい撮影の合間に日光まで来て熱心に練習に取り組まれた結果、日光乗馬クラブで行われた撮影本番では見事な演武を披露され、撮影スタッフ、エキストラ一同、感嘆させられました。また、アクション系俳優として活躍されている

戻しました。気を取り戻してもまだ叩かれていました。何方か覚えていませんが、名乗り出ていただければ懐かしい話ができます。この時は、人馬転のケガも頬を叩かれたことも辛かったです。それでも気を取り直して、「パリまで連れて来ていたいて、こんなところでおめおめと引き下がれるものか」、「小笠原教場初めての海外公演で事故として残ってはいけない」、「馬主の方にご迷惑をかけてしまっ」、「馬乗りの端くれとして意地でも乗らなくては」との強い気持ちで(若いこともありましたが、



平成 5(1993) 年 9 月 鶴岡八幡宮 / 流鏑馬射手



平成 12(2000) 年 3 月 ハワイ ジャパンウィーク
笠間稲荷神社流鏑馬

上：クアロア牧場にて稽古後の集合写真
下：アラモアナショッピングセンター近く 流鏑馬射手

ケイン・コスギさんが出演される筋肉番付という番組で流鏑馬に挑戦する撮影がありました。やはりスタントをこなす俳優さんだけあって、暗くなるまで納得がいくまで頑張った結果、たった一日の練習で弓を引き的中でてしまいました。

アメリカ人ライターのチーム・フェリスさんの撮影では、彼はマーシャルアーツをやっており、約一週間の練習で流鏑馬本番の撮影をやりたいとのことでした。近くのロッジに宿泊して、毎日研究しながら熱心に稽古に取り組んでいました。撮影本番には救急車まで待機させており、ケガを覚悟して流鏑馬の撮影に取り組む姿勢のアメリカ人のチームさんに驚きました。落馬することなく何とか的中することができて、本人は大満足だった様子でした。テレビの生放送では、大晦日の十二月三十一日、「料理の鉄人」という番組で、食材に何を使うか

流鏑馬で決める演出依頼がありました。年の瀬も押し迫る十二月三十日に日光乗馬クラブより馬を載せて、新しいフジテレビ新社屋が立つ現地に入り日航ホテルに一泊し準備を行いました。大晦日の夜中、的に見立てた食材が書いてあるルーレットを目掛け矢を射るわけですが、それも生中継で行います。一ノ的には魚類、三ノ的には野菜、三ノ的には肉類が書かれていました。出走時間は、馬場元に置いてあるモニターをプロデューサーの方が見ながら指示を出すことになっていました。「次のビールのコマースシャルが終わってからすぐに出て欲しい」との指示があり、馬上での緊張は頂点に達しました。コマースシャルが終わると同時に、並走して撮影するため、脇に待機していた軽トラの荷台に乗っていた撮影クルーと一緒にスタート。一ノ的、二ノ的、三ノ的すべての的に中り(何の食材に中ったか覚え

ておりません)、やり直しがきかない生中継。日光の人たちのみならず、日本中の人たちが見ていると思うと、三つの的すべてに中てることができてホッとしたのを思えております。

ご紹介させていただいたのは、ほんの一部です。日本各地での流鏑馬ご奉仕での思い出。日光乗馬クラブでの合宿時の思い出など、ここには書ききれないほどです。

これまで四五年間、流鏑馬に従事できましたのも、日光東照宮稲葉久雄宮司様をはじめ、弓馬術礼法小笠原教場三十二世宗家小笠原清忠先生、ご嫡男小笠原清基様、今は亡き沢辺雅二様、その他多くの諸先輩方の熱いご指導の賜物と思っております。長いようで短い人生の中で貴重な経験をさせていただいたのも、小笠原流流鏑馬に出会えたからこそと、心より感謝申し上げます。

私と小笠原流

ダイヤー彩野



小笠原流展 装束のディスプレイ

小笠原流との出会い BUDO

6年前私は、海外向けに日本文化を美しいビジュアル本で紹介するというプロジェクトに関わっていて、新しく作成する本は武道、特に古武道をテーマに作りたいたいと考えていました。古武道について知るために、様々な本を読んだり、古武道大会のYouTubeを観たりしたときに、小笠原流という流鏑馬の流派は、他の武道と比べて見た目や動きがとても美しく、絶対に本へ入りたいと思いました。当時は武道関係の知り合いもいなかったので、半信半疑で小笠原流のウェブサイトのお問い合わせページから、連絡させていただいたのが始まりでした。

小笠原流からはすぐにお返事をいただき、会って話を聞いていただけることになりました。その後、大喜びで打ち合わせの準備をしているときに、小笠原流が弓術や流鏑馬だけでなく礼法の流派でもあることを知りました。「失礼な態度をしてしまったら、プロジェクトの話を



BUDŌ 2017 年出版



BUDŌ の撮影現場 田町 グランパーク屋上

聞いていただけないかもしれない」と考え、慌てて礼法の本を購入し、編集チーム全員で礼法の練習をしてから教場へ伺いました。

教場の玄関前に着いたときに、丁度どこからか戻られた若先生と始めてお会いしました。私は平騎射の格好をされていた若先生のたらずまいやオーラに圧倒されました。踏み入れてはいけないところに踏み込んでしまったような気持ちになり、これからこの方にプロジェクトご協力をお願いをしなくてはならない立場に自分を置いてしまったことを後悔しました。その上、教場の玄関には大きな踏み石があり、どのよ

うに上がらせていただいたら良いのかもわからず玄関先で緊張は既にピークになってしまいました。しかし私のそんな動揺をよそに、小笠原流の皆さまは私たちを丁寧に迎え入れてくださいました。

若先生が小笠原流の説明をしてくださっている途中から、御宗家もいらつしやり、私の緊張はさらに強まり汗が止まりませんでした。御宗家は、企画へのご協力を快諾くださり、本に掲載する他の流派についてのアドバイスもくださいました。写真家の森山雅智さんをご紹介いただいたのもこのときでした。

教場を後にした静岡までの帰りは、新しいプロジェクトの始まり

に興奮しながらも、いままでにない武道の本を作ろうと決意を固めていました。でもこのプロジェクトがそれからの私の人生を変えるとは、そのときはまだ想像もしませんでした。

後にその本は、「武道に興味がない方も手に取ってみたいくなる」をコンセプトに、小笠原流の御宗家にご紹介いただいた他の3流派（柳生新陰流、天道流、宝蔵院流）を加え完成しました。

この本のタイトル「BUDŌ Japanese Martial Arts」はすぐに決まりましたが、武道の魅力・稽古・アート（技術）の素晴らしさを込めたいと考えたサブタイトル「The art, culture and philosophy of the Samurai」は、決定までに2週間かかり、考え過ぎてストレスで腕が痛くなるほどでした。

BUDŌ は2017年に英語、フランス語、ドイツ語で出版され、2018年にはアメリカの「国際ブックアワード」の「多文化ノンフィクション部門」で最優秀賞を受賞し

ました。

— 小笠原流展 —

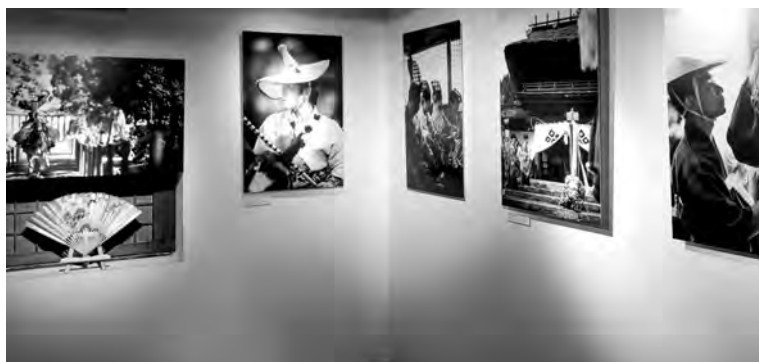
2018年の秋に若先生から、小笠原流の写真の展示会を考えているとのご連絡をいただきました。展示会ではBUDŌで森山さんが撮影した写真展示を主にご希望とのことでしたが、私は写真展示に加えて、一般の方が近くでは見る機会がない装束や弓矢などの道具類の展示、VR (Virtual Reality・仮想現実) ゴーグルを使った流鏑馬体験の提案をさせていただきました。VR動画は流鏑馬の朝練習で、騎射の方に



VR 流鏑馬を体験する若先生

全方位撮影ができるカメラの付いたヘルメットを装着していただき撮影をしました。この動画を、VRゴーグルを着けて見ると、流鏑馬の射手と同じ風景を体感することができます。

展示会場はお茶の水駅前の街中でしたが、木馬の演武も行われました。普段小笠原流の行事は神社などで行われることが多いので、神



小笠原流展

社や伝統文化に興味が無い人にはなかなか届きませんが、この展示会はギャラリーで行われ、美しい写真、貴重な装束や弓矢の数々、流鏑馬VR体験、若先生と森山さんの対談、そして街中で行われた木馬の演武と、小笠原流を多くの一般の方々に見ていただけた、特別な機会になりました。

そのころ私の勤務していた会社の体制が変わり、私は出版の仕事ができなくなっていました。少し悩んでいましたが、小笠原流展でやる事が自信と力になり、私は会社を辞め独立することに決めました。

人生には決定しなくてはならない場面が誰にでもあります。そのタイミングに素晴らしい方々に囲まれていたことをとても幸運に思います。小笠原流展のチームから新しい一歩に進む勇気をいただきました。

— オンラインレッスン —

それから現在にいたるまで、私は小笠原流のさまざまなプロジェクトに関わらせていただいています。その中でも特に、海外向けウェブサイトやオンラインレッスンの開設・運営は、私にとって特別なプロジェクトとなっています。オンラインレッ

スンでは通訳もさせていただきますが、いますぐ、レッスンはヨーロッパ、北米、南米など世界中から受講者があつまり、皆さんとの交流も楽し



小笠原流展 お茶の水駅前で演武

くさせていただけます。受講者のひとりのポルトガルの方は、25年以上前に弓道を始めたときの先生が小笠原清信先生をご存じの方で、その先生からまだ当時子どもだった清基先生のことを聞いていらしたそうです。その弓道の先生が、清基先生はきつと素晴らしい礼法、弓、流鏑馬の使い手になるだろうとおっしゃっていたので、いつか小笠原流の稽古を直接受けてみたいと願っていらしたそうです。その夢がやっとかない数年前にフランスに若先生がいらしたときに初めて見たその動き、教えに感銘をうけたこと、そしていまはオンラインで



小笠原流海外ウェブサイト

直接教えていただける幸運を感謝していることなどをメールでいただきました。私はこのメールを読んでオンラインレッスンの開設に関わらせていただいたことをとても光栄に思いました。

小笠原流から学ばせて いただいたこと

レッスンの通訳をさせていただいていると、先生のお話に引き込まれてしまい、自分は通訳なのだということをお忘れしてしまいになることがあります。

一般的に礼法というと型通りの厳しい動きや姿勢を想像してしまいますが、小笠原流は全く違います。「すべての動きに意味がある」とのお言葉のとおり、意味があるからこそ柔軟に考えて対応できる正しい理解があれば、末端のどちらかというところでもよいことは気にかけることができることでした。礼法の本流である小笠原流がこのような考え方なのに、どうして世間一般での礼法は違ったイメージがあるのでしょうか。これは正しい教



えが伝わらず、形だけを真似ているからなのではないかと思いますが、日本の教育システムや社会の在り方にも似ているところがあると感じてしまいます。私は以前より「皆が同じように」という考え方や社会の在り方が、日本の良いところであり、悪いところでもあると思っていました

小笠原流の教えのように、正しくするべきはこういうところ、それにはこういう意味があるから。でもそれ以外はその人や場所、状況において調整が可能であるというような考え方が、教育や社会生活に活かされたらどれほど素晴らしいことでしょうか。いまは多様性を認め、個を大事にしないといけないことに社会も気付き始めていますが、小笠原流は800年以上も前からその考え方なのだと知りました。そして小笠原流はそれだけにはとどまりません。個を大切に思う気持ち、他の人への思いやりと礼になっ

ていて、それが理論だけでなく、現実にできるための実用的なガイドラインがあるのです。

小笠原流は日本の伝統文化を牽引し続けてますが、その活きた教えは国際社会でいま必要とされていることと全く同じであり、だからこそ、世界中から学びたいと思われる方々が集まるのだと思います。きつとその先見の明が、たとえば将軍家が変わっても小笠原家が礼法の指南役として選ばれ続けられた理由なのではないでしょうか。病氣や戦

争と、問題が続く世界に生きていますが「いつどんな状況でも、自分を律して他を思いやる」小笠原流の普遍的な教えは、私たちが現代の問題を乗り越えるための答えが見つまっているように感じます。

私は小笠原流の皆さまの側で貴重な経験をさせていただいていることを心より感謝しています。これからも世界中の武道や日本文化を愛する方々はもちろん、そうでない方々にも小笠原流を知っていただけるように少しでも橋渡しのお役にたてれば、これ以上の幸せはないと思っています。



◆寄稿者プロフィール

ダイヤー彩野

A&M Project 代表
編集者、翻訳・通訳者

17年間のロンドン生活の後、日本の会社で英文ライティング、日英翻訳、多言語翻訳コーディネイト、海外向け書籍の編集・海外営業などの仕事を担当。2019年に独立し現在は主に海外向け企画・制作を行う。

Ogasawara-Ryu America 小笠原流 アメリカ支部

マリア・ピーターソン

小笠原流アメリカ支部のティム・マクミランとマリア・ピーターソンです。私たちはレッドウッド弓道場で稽古をしています。ティムは小笠原流と小笠原家に長年のつながりがあり、日光で流鏑馬の稽古をしていました。2021年、私たちは小笠原清基先生の依頼を受け、ティムが支部長、マリアが事務局を務める小笠原流初の海外支部を創設しました。

■レッドウッド弓道場

全日本弓道連盟の練土になった頃、私は北カリフォルニアに弓道場を建てるための場所を数年間探していました。2009年、私は勤務先のシリコンバレーに近い小さな田舎町、ラ・ホンダで隣接する2つの土地を見つけ、購入し、道場の建設計画をスタートさせました。

建築の許可を得るためには、建物に住居が含まれていなければならなかったため、稽古場の上には私と夫のティムが住む家があります。2015年に竣工した稽古場は2016年5月



レッドウッド弓道場の矢道



大的式の稽古をしているマリア

にオープンしました。道場開きには小笠原清基先生が屋越しの臺目を執り行つて下さいました。式典はフランス弓道連盟会長のレジヌ・グラデュアル氏や、EKF会長のジェラルド・ジーマン氏をはじめ、約60名の弓道仲間や家族が見守る中、行われました。

レッドウッド弓道場は、アメリカ西海岸にある唯一の弓道専用の道場で、サンフランシスコやシリコンバレーから車で1時間のところにあります。カリフォルニア州レッドウッドの雄大な自然の中にあり、静寂に包まれ、夏でも涼しく過ごすことができます。夜にはフクロウの鳴き声が聞こえ、鹿などの野生動物も頻繁に訪れます。



ミキに木馬を教えているティム

■稽古場

カリフォルニア州に存在するすべての建築許可（火災や地震の安全性など）を遵守するため、また50mの高さのレッドウッドの木々に囲まれているため、この道場はモダンな建物として建設されました。1階には玄関、弾やその他の備品を収納する小さなロビー、シャワー、28メートルの矢道を備えた5つの的の射場があります。稽古場の内部は白く塗られています。床はホワイトオーク材で、流鏑馬の練習用の木馬も置かれています。木馬、矢立、弓立、巻藁立など、道場の木工品はすべてティムの手作りで、地元のレッドウッドを使用しています。的場は母屋と同様の構造で、砂の安土があります。矢道の両脇には紅葉が植えられ、シダ、芝、コケなど森の環境を楽しむことができます。

門人

小笠原流アメリカ支部は2021年5月に設立され、現在、アメリカ、カナダ、メキシコ、南米から29名のメンバーが参加しています。サンフランシスコ・ベイエリアのローカルメンバーはレッドウッド弓道場で直接稽古を行い、カリフォルニア州外やアメリカ国外からのリモートメンバーはZoomで稽古に参加しています。

稽古

レッドウッド弓道場では、ティムと私が全日本弓道連盟の弓道と、小笠原流の礼法・歩射・騎射の指導を行っ



小笠原清基先生によるセミナー



射場にて。小笠原清基先生とセミナー前の打ち合わせ中



建設中の礼法スタジオ

ています。毎週日曜日午前10時から午後1時まで全日本弓道連盟弓道教室、毎月第1日曜日前11時から正午までリモート会員向けビデオ教室を開催しています。毎月第3日曜日の午後2時〜3時には、小笠原流の稽古を直接、またはビデオで行っています。また、他の曜日にも道場に来て、個人的に稽古をすることができます。小笠原流アメリカの会員が稽古しやすいように、多くの建設プロジェクトが完了しました。ティムは回転する木馬を作り、江戸時代の3つの鞍と鎧、そして木馬や馬に装着する道具を手に入れました。また、清基先生から提供されたあおりから型紙を作りデザインし、製作しました。私は数人のメンバーと共に、10枚の射

お越しになる際は

レッドウッド弓道場には、1人または2人で宿泊できる来客用キャビン（2段ベッド）があります。稽古場のすぐ隣にあるティム作の浴場では、

籠手と、笠の中敷きと紐を縫いました。また清基先生から寄贈された装束の型紙に従って、金色の水干を製作しています。また現在は礼法の稽古と巻藁の前での歩射の稽古に利用できるように床面積を拡大しようと、12畳の礼法スタジオも建設中です。



あおり



射籠手



笠

伝統的な杉の木で作られた薪風呂を楽しむことができ、キャビンが満室の場合は、弓道場に宿泊することも可能です（簡易ベッドまたはマットレスを使用）。また、レッドウッド弓道場から車で30〜45分ほどの近隣の町にはホテルがあります。最寄りの空港は、サンフランシスコ国際空港とサンノゼ国際空港で、それぞれ車で約1時間の静寂の中で稽古を楽しみたい方は、ぜひ一度見学にいらしてください。

サンフランシスコ・ベイエリアへお越しの際は、お気軽にご連絡ください。皆様のお越しをお待ちしております。マリア&ティム



ゲストのためのキャビン

理事長のつづやき

海外との関係

当法人理事長 小笠原 清基

小笠原流が初めて海外で流鏑馬を行つたのは昭和59年の『パリ・シヤンドマルス公園東京・パリ友好都市提携奉祝流鏑馬執行』です。昭和16年に満州国建国10周年奉祝流鏑馬が行われていますが、いわゆる今の日本の領土という概念からは少し異なるかと思いますが、昭和61年が最初ということになるかとは思います。その後、フランスやハワイ、ロシア、イギリスなどで流鏑馬を執行しました。イギリスの流鏑馬は当時の日英両国の皇太子殿下が台覧されました。歩射の行事としては、平成26年のフィンランドで大式的を行つたのが最初

となり、ポーランド、アメリカなどで行っています。礼法については、儀

式の執行は行つたことがありませんが、講演会や稽古としてオーストリア、ポーランド、アメリカ、ロシアで行っています。

門人としては、昭和40年代にシャウイン・テリーさん（アメリカ）が最初に入門（門人として認められること）しました。その後、日本在住の外国籍の方や日本国籍を取得された方々が入門をされています。現在では、日本の外に住んでおり日本国籍を持つていない方々も門人となつてい

ます。
平成6年に現在の宗家（31世）が襲名をしましたので、31世の時代になつてから海外に対する門戸が大きく広げられたということになります。

私自身は平成8年の『ハワイ・ホルルフェスティバル等間稲荷神社神事流鏑馬執行』に奉仕したのが最初の海外での経験になります。その後、モナコ、フランス、イギリス、フィンランド、ロシア、オーストリア、ポーランド、台湾、アメリカと様々な国へと行かせていただきました。行事の執行だけでなく、講演会や稽古というだけでも行かせていただいています。行事の時には15名〜30名ほどで



フランス



ハワイ



イギリス 当時の日英皇太子殿下が台覧された



行くのですが、講演会や稽古となると一人で行く場合もあります。一人で準備をし、話し、演武をし、交流をするという全てを行うことになるので多くの学びがあります。日本では簡単に通じる専門用語であったり、話しの行間は海外では全く伝わりません。そのため、本当の意味で物事を理解していないといけないというのが貴重な経験となっています。印象的であったこととして、アメリカに行った際の休憩時間の時の質問です。『侘び寂びというのは、茶室のような日本家屋で無いと成り立たないのか?』という質問です。私にとっては、疑問に思うことすら無い当たり前のことでしたが、ふとその際に思ったのが門人の方々は簡単に皆返答できるだろうかという疑問です。この答えはもちろん『どの国でも、どの場所でも成り立ちます』になります。また、別の

こととしては、袴で長時間の移動を車でする際に帯の枕が痛くなるので、帯の結び方を少し変えていたら、そのような結び方があるのか?という質問を受けました。一挙手一投足に対して見られているのだなという思いを持ちました。日本では稽古の前にどのような立場であれ、準備や掃除をするというのは当然のことなので、弓道場の掃除を外国の方々と共にしていたら、参加者の方々から大いに驚かれたということがよくあります。海外では仕事が分業されているという文化背景があるからだということでした。しかし、武道においては掃除をするということは非常に大切なことです。日常の喧騒を稽古に持ち込まないようにするための準備でもあるからですが、そういった本質的なことをあまり伝える機会が無いのかもしれない。

海外で行事を行うにしても日本とは全く異なり強い関心を持って観ていただきます。少人数で短期間に作り上げていくために一人一人がしっか

りと考え行動するということが求められます。このような経験は、それぞれの技量をあげる大変よい機会となつています。そのため、なるべく多くの門人の方にご参加いただけるようにしており、流鏑馬の執行であったとしても、1名あるいは2名程度は流鏑馬の稽古をしていない門人もご参加いただくようにしています。

海外の方々に触れることは、日本の門人の方々にとっても非常に意義のあることです。そのため、海外の門人の方が日本に来た場合には積極的に関係を持つ機会を設けています。新型コロナウイルスの影響で国をまたいだ行き来が出来なくなりましたが、代わりにオンラインの普及が進みました。この変化は小笠原流にとっても大きなものでした。オンラインでの稽古を取り入れたことによりアルゼンチンやメキシコ、ブルガリアなど伺う機会が無さそうな国の方々に小笠原流を稽古する機会を持っていたことができました。参加される方の満足度も考え一回最大8名までとして1時間の稽古にしてい

ますが、弓道を稽古されている方以外の方も参加されています。オンライン稽古を始める前は海外に住んでいる門人は8名でしたが、現在50名ほどになっています。小笠原流の場合には希望者は誰もが門人になれるということではありません。かつては3名の紹介が必要だったのですが、これも三十一世になってから撤廃されました。海外の方々に1年間は最低稽古をしていただき、それでもなお一層稽古をしたいと思うのであれば、個別に面談をして入門をしていただくという手順をとっており、小笠原流が大切にしている哲学を共有・認識・理解をしていただいています。オンライン稽古を始めて門人になる方々が増えたのは、やはり、小笠原流が伝える哲学に共感を持つ方が多いからだと思います。海外の場合には行事の執行ということはまだ難しいために、純粋に哲学に惚れ、学び稽古をしていきたいと思われています。そういった意味においても稽古に熱心でありますので、日本の門人よりも上達が多く、いつの日にか海外の方々の方

アメリカ



フィンランド



ロシア



が上手になつていくということが起きると思っています。

今後は、日本でも門人向けのオンライン稽古を開始していきますが、国や地域を越えて共に稽古をする機会を増やしていきたいと考えています。今後一層、交流が盛んになっていくと思っています。日本人が当たり前だと思っていることを言語化し分かりやすくかみ砕いて伝える方法を身に付けていかななくてはならないと思います。これまでは難しい表現を使うことが権威付けのように行われていましたが、難しいことをいかに分かりやすく言えるかが真の意味で実力があり権威があるというようになつていくだろうと思っています。そのためには、小笠原流のことだけでなく広く日本文化に対する知見を持つ必要があります。稽古の中で紹介をしつつ、外部組織との連携もしながら門人の方々の育成につとめます。必ずしも外国の言葉を話せる必要は無いと思っています。通訳の方をお願いすればいいことであるし、

科学技術を活用すればよいことです。それよりも伝える内容を持っているかどうかの方が大切です。

今の時代、マーケティング論が大切とされますが、オンライン稽古に私はその思想を取り入れる気持ちはありません。全ての国の方で興味のある方が稽古ができるのがオンラインのよさです。小笠原流を学び伝えたいと思う方々が稽古ができる環境を整え、さらに互いが切磋琢磨できるようにし、結果として各自の技量を昇華できるように注力をしていきたいと考えています。そのためには、当法人の役割は大きいのではないかなと思っています。環境を整え、道具をそろえるだけでなく、ウェブサイトをなどを用いて興味を持つ方々に情報を届けていくということも大切です。会員の皆様方のお一人一人のお力添えが結果として830年続く流儀の継承を900年、1000年としていく礎となるのだと思います。今後ともお力添えのほどよろしくお願いいたします。

オンライン稽古の様子



ポーランド



2021年度の活動報告

□講座について

子供流鎗馬教室

教場にて、子ども流鎗馬教室を行いました。例年は春に行っておりますが COVID-19 のために本年は秋に開催することとなりました。6 回講座で稽古着の着方や木馬での稽古、弓の引き方などを行いました。この事業は文化庁の助成事業として行いました。



弓道教室

埼玉県北本市にあります小山弓具併設の弓道場にて、弓道教室を行いました。毎年、弓道教室を出られた方から門人になられる方もおられ、小笠原流の弓術の普及に貢献している教室です。また、同施設では外国人の方を対象とした弓道教室も開催しています。

礼法教室

千代田区にあります区の施設をお借りし、水曜日の夜に礼法教室を行っております。講師には小笠原流の礼法を稽古されている門人の方々にお願いしております。週末や平日の昼間の稽古では時間が合わない方々に小笠原流の稽古をしていただける場として大変有用な機会を提供出来ていると考えております。COVID-19 のために開催できない期間もありましたが、継続して礼法教室を行っています。

女性向け礼法講座

京都駅付近にありますキャンパスプラザにて女性向け礼法講座を開講いたしました。平日夜、京都駅近くということもあり、多くの方にご参加いただいています。COVID-19 のために開催できない時期がありました。

□その他

小笠原教場の安土を再建しました。

矢道の整備を行いました。

諸道具の作製を行いました。

道具の修繕に関わる環境整備をしました。

小笠原流 NPO 交流サイトにご登録はお済みですか？

当法人の会員の方々の情報交換や交流を深めることを目的とした掲示板です



利用をご希望の方は下記のように登録手続きをお願いいたします。

登録方法

- ① forum@ogasawara-ryu.gr.jp宛に、以下の内容についてメールをお送りください。
 - ・ 交流サイト登録用メールアドレス
ケータイメールのアドレスですと、登録がエラーになる可能性があります。他のメールアドレスでのご登録をお願いいたします。
 - ・ 氏名、読み仮名
 - ・ ハンドルネーム(お名前以外で掲示板の使用をご希望の方は、ハンドルネームを記載してください)
- ② メールアドレス登録完了のご連絡とともに、新規利用の案内メールを送らせていただきます。
- ③ メールに記載されているURLをクリックして、利用の手続きに進んでください。
- ④ メールアドレス認証用に、メールが送られます。
@site-members.comからのメールをお受け取りいただけるように、フィルタの設定をご変更ください。
- ⑤ 事前に登録いただいたメールアドレスにてログインをしていただきますと、交流サイトを閲覧・記載することが可能となります。

ご不明点がございましたら、
forum@ogasawara-ryu.gr.jp までご連絡ください。

□広報活動について

武田流と合同流鏝馬を熊本で执行しました。

COVID-19のために流鏝馬が執行できない状況が続いている中、熊本での流鏝馬でしたが関東や関西から門人の方々が参加されました。



海外の方々に認知をしていただくために
ウェブサイトを更新しました。

<https://www.iccho-ogasawara-ryu.com/>



会員制度と特典のご案内

NPO法人 小笠原流・小笠原教場では、特別賛助会員を設置いたしました。
会員になっていただける方は下記事務局までお問い合わせください。

	個人会員	法人会員	特別賛助会員
入会金	5千円	5千円	5千円
会費ならびに寄付金	一口以上 (一口1万円)	三口以上 (一口1万円)	一口以上 (一口10万円)

※特別賛助会員は総会での議決権が付与されませんことをご承知おきください。

	個人会員	法人会員	特別賛助会員
門人向け会報「糾方」(年二回発行)	1部	3部	20部
会報「姿」(年一回発行)	1部	3部	20部
行事拝観	2名まで	5名まで	20名まで
掲示板の閲覧	○	○	○
冊子への社名記載	—	—	○
教場での社名記載	—	—	○
税優遇	—	—	—

* 社内報などに掲載していただくことが可能です。

ご寄付のお願い

NPO法人 小笠原流・小笠原教場では、小笠原流の伝統文化の保存と育成を目的としてご寄付をお願いしております。寄付いただける方は下記事務局までお問い合わせください。

寄付金額:1回3千円以上

寄付いただいた方には、年二回発行される会報誌「糾方」とご希望の方にはメールマガジンを送らせていただきます。

税控除について

2017年に認定NPO法人となりましたので、寄付頂いた後に確定申告されると、寄付金控除を受けることができ、最大約半額が戻ってきます。

※詳しくは最寄の税務署にお問い合わせください。

NPO 法人 小笠原流・小笠原教場

<https://www.ogasawara-ryu.gr.jp>

e-mail npo@ogasawara-ryu.gr.jp

令和4年5月1日 特定非営利活動法人 小笠原流・小笠原教場 発行

編集・発行人 小笠原清基

〒251-0037 神奈川県藤沢市鵠沼海岸 2-17-4 TEL 0466-34-4089 FAX 0466-34-4102

©Ogasawara-ryū Ogasawara-school 2022 Printed in Japan



特定非営利活動法人
小笠原流・小笠原教場